

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年12月14日（火）

2 確認箇所

- ・物揚場
- ・5・6号機護岸

3 確認項目

- (1) 小笠原諸島海底火山噴火による軽石漂着対応の確認
- (2) 多核種除去設備等処理水に関する設備の検討のための海底地質調査船の出港

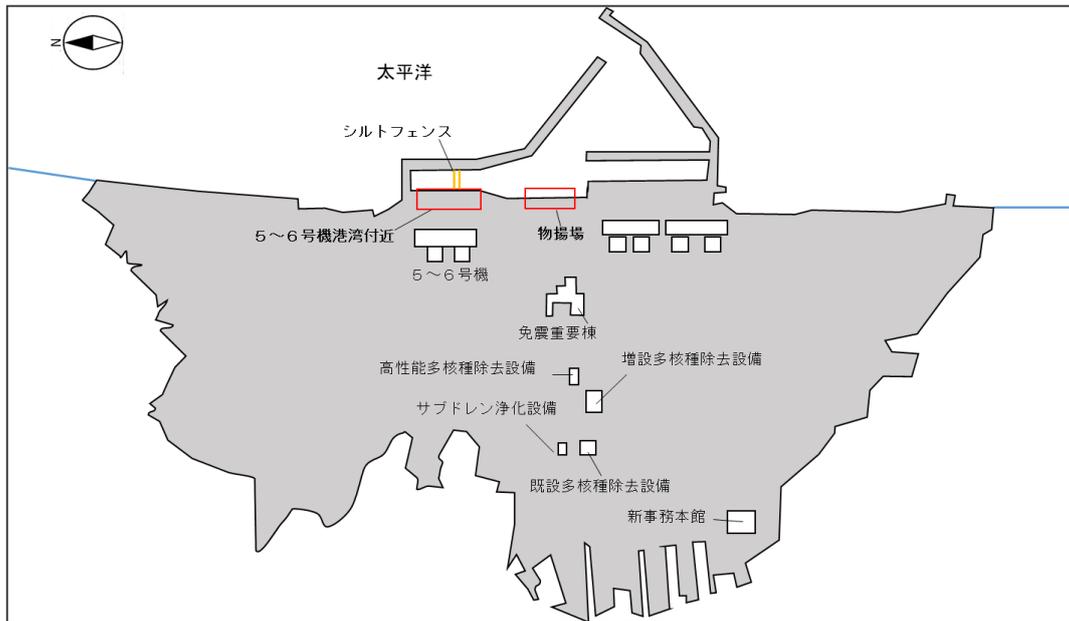
4 確認結果の概要

- (1) 小笠原諸島海底火山噴火による軽石漂着対応の確認について

小笠原諸島海底火山噴火に伴い発生した軽石が海流等の状況により今後福島第一原子力発電所へ漂着し、5・6号機の使用済燃料プールの冷却等に影響を及ぼす可能性があることから、東京電力では軽石漂着防止対策としてシルトフェンスの補強等を行うことから港湾内の状況を確認した。

(図1)

- ・5・6号機開渠の既設シルトフェンスについては、5・6号機護岸側及び北側防波堤に設置されている係留金物から伸びる各4本ずつの鎖によって展張されていた。各係留金物からシルトフェンスへ新たに補強用のロープが結ばれていた。(写真1)。
- ・また、東京電力ではシルトフェンスの補強以外にも東波除堤・北防波堤付近に係留金物を設置し、必要に応じてオイルフェンスの展張行う等の軽石対策を準備しているとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
5・6号機開渠部
既設シルトフェンス



(写真1-2)
シルトフェンスは5・6号機護岸側の護岸と北防波堤付近の係留金物から伸びる鎖(それぞれ4カ所ずつ)によって展張されていた。



(写真1-3)

係留金物には新たに白いロープが結ばれており、シルトフェンスを補強していた。

(5・6号機護岸側)



(写真1-4)

係留金物とロープの状況

(5・6号機護岸側)



(写真1-5)

北側防波堤におけるシルトフェンスの係留金物についてもロープが結ばれていた。

(2) 多核種除去設備等処理水に関する設備の検討のための海底地質調査船の出港について

東京電力では福島第一原子力発電所の多核種除去設備等処理水を海洋に放出するための海底トンネルの建設を計画している。

海底トンネルの建設に当たって東京電力は海底地質調査船による調査を行うとしており、本日、沖合に向けて調査船（自己昇降式作業台船（SEP台船））が物揚場から出港することからその状況を確認した。（図1）

- ・SEP台船は係留ボートに曳航され物揚場を11時頃に沖合に向けて出港していった。（写真2）
- ・東京電力によれば、取水・放水設備（海底トンネル等）の設備検討を行う上で必要な地質データの把握のため（3箇所）、ボーリング調査を行うとしている。



(写真 2 - 1)
物揚場に接岸している SEP 台船



(写真 2 - 2)
曳航船に牽引され物揚場を出港
(11 時頃)



(写真 2 - 3)
港湾内を牽引される SEP 台船



(写真 2 - 4)
港湾外を牽引される SEP 台船

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。